

連携機関ご紹介コーナー

えのきクリニック



院長 **大徳 悦孝** Yoshitaka Daitoku

昭和58年3月 / 広島大学医学部卒業
 昭和58年4月 / 広島大学原爆医学放射能研究所外科入局
 昭和59年2月 / 西城町立病院外科勤務 等
 平成9年4月 / 開業

趣味 / 映画、音楽、旅行、ドライブ、グルメ
 健康法 / 犬と散歩(ブルテリアを2匹飼っている)
 モットー(大切にしている事) / やりたい事はやる
 リフレッシュ法 / 風呂(音楽を聴きながら湯船につかりリラックスする)、温泉旅行



えのきクリニック

住所 安芸高田市吉田町吉田834-1
 開院 平成9年4月
 標榜科 外科 内科 胃腸内科
 リハビリテーション科

毎日の診療で大切にされていることは何ですか

受診して良かったと思われる、わかりやすい説明を心がけています。

自院のやりがいは何ですか

厳しい時代ではありますが、色々やりくりして患者さん第一の診療をしていながら、皆さんの健康に貢献して喜んでもらえるように、これからも頑張っていきます。

JA吉田総合病院に望むこと

百楽荘の配置医師をしています。入所者さんの受け入れを引き受けていただいて、いつも有難く思っています。今後とも地域の基幹病院として連携をお願いします。

平成29年度 糖尿病教室のお知らせ

糖尿病ってどんな病気？
 糖尿病は予防できるの？ 食事は…？
 まず何をすればいいのかな？



受講対象者

糖尿病患者様とその家族

日時

毎月第1と第3火曜日(1クール2回) 午後2時~4時

第1回	4月4日・18日	第7回	10月3日・17日
第2回	5月2日・16日	第8回	11月7日・21日
第3回	6月6日・20日	第9回	12月5日・19日
第4回	7月4日・18日	第10回	1月9日・23日
第5回	8月1日・15日	第11回	2月6日・20日
第6回	9月5日・19日	第12回	3月6日・27日

※3月は祝日と重なるため、第1週・第4週に開催します

場所

JA吉田総合病院 健康管理センター運動栄養指導室
 (南館2階 健康管理センター内)

参加費

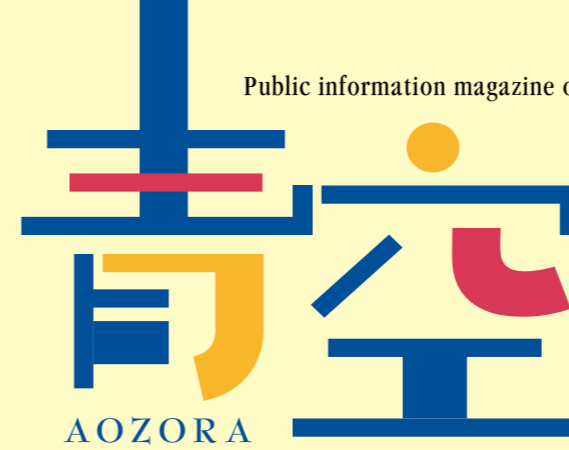
- 当院に受診されている方…約1,200円(保険適用)
注)負担割合で金額が変わります。
- 当院に受診されていない方、他院から紹介の方…1,200円
(診療報酬定額により、今年度より参加費が変更となります。また、1クール中1日のみ参加された方への返金はできません。ご了承ください。)

内容

1 日 目	糖尿病ってこんな病気!【医師】	(30分)
	検査値に詳しくなろう!【検査技師】	(30分)
	トイレ休憩と質問コーナー	(5分)
	知って得する薬の話(糖尿病編)【薬剤師】	(30分)
2 日 目	食品交換表と食事プラン【管理栄養士】	(30~40分)
	これなら続く! 運動療法【理学療法士】	(30分)
	足元注意! あなたの足は大丈夫?【看護師】	(30分)
	トイレ休憩と質問コーナー	(5分)
	つい手が出る間食・外食のポイント【管理栄養士】	(30~40分)
	これからの生活習慣を考えてみよう【保健師】	(20分)

お問い合わせ

- 当院の外来・入院患者の方…主治医へご相談ください。
- 上記以外の方…地域連携室までご連絡ください。
(TEL.0826-42-0669)



やさしい心で
 良質な医療を

夏号

vol.54

JA吉田総合病院

発行/広島県厚生農業協同組合連合会 吉田総合病院
 〒731-0595 広島県安芸高田市吉田町吉田3666
 Tel.0826-42-0636 Fax.0826-47-0007
 2017年(平成29年)5月発行
 http://yoshida-gene-hospi.jp/

Facebookを開きました



ご挨拶

看護部長あいさつ

看護部長
 谷川 裕子



澄んだ青空に風薫るさわやかな季節となりました。

地域の皆様には、日頃から吉田総合病院に、多大なるご理解とご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

前看護部長の退職に伴い4月より看護部長の任を受け、長年担当していた外来勤務から現場を離れました。これからは看護管理者として、社会情勢や組織・地域の状況を見据えた考えや行動をとり、基幹病院としての役割を果たせるように努力していく事が自分の役割と考えと身の引き締まる思いです。また、吉田総合病院看護部では、新年度看護・介護の19名の新採用者を迎え、新たな気持ちでスタートしました。



さて、現在の社会情勢として、社会保障・税一体改革において、2025年のあるべき姿を見据えて、「医療機関の機能分化と連携」「在

宅医療の充実」をめざしています。そして、これまでの「病院完結型」の医療から「地域完結型」の医療に変化してきています。高齢者が最後まで住み慣れた地域で生活できるように、地域包括ケアシステムの構築に向けて活動が行われています。当院においても、2014年12月より地域包括ケア病棟の稼働を開始し、地域包括ケアシステム構築のために、病院全体で取り組んでいるところです。今年度看護部では、ビジョンを「日常生活を見据えた最善の看護を提供し、在宅療養につなげます」として、

- ①患者に寄り添い、意思決定を支援する。
 - ②地域医療介護に対応できる看護実践力を強化する。
 - ③質評価で看護を可視化して改善を行う。
 - ④専門性を発揮できる人材の育成と活用を行っていく。
- の4つの戦略目標をもとに、目標達成に向け努力していきたいと考えてい

ます。また、地域の基幹病院として、地域の皆様の健康を守るために、保健・医療・福祉、三位一体の地域完結型の信頼される病院を目指します。高齢化が進む地域で、患者様が住み慣れた地域で生活できるように、多職種と「顔」の見える連携に力を注ぎ、また、患者様の思いに寄り添い、思いやりのある看護が提供できるよう取り組んで参ります。

医療を取り巻く環境は、ますます厳しい状況になって行くと思いますが、地域の皆様が安心して生活できるよう多職種と連携を強化し、看護の力を発揮して参ります。



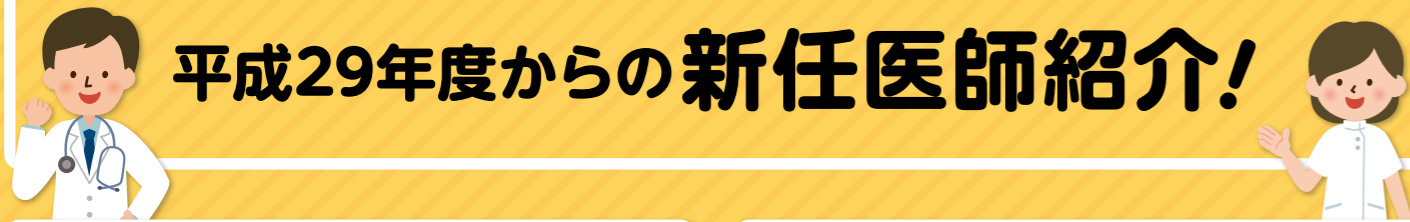
基本理念

1. 私たちは何人にも平等に医療を提供します。
2. 私たちは地域の基幹病院として、最良の医療を提供します。
3. 私たちは納得と同意のもとに信頼される医療を提供します。

基本方針

1. やさしい心で安全・良質な医療・保健・福祉サービスを提供します。
2. 医療を受ける人びとの人格、権利を尊重し、全ての人に貢献します。
3. 生涯学習の精神を保ち、知識と技術の習得に努めるとともに、医療の質向上に尽くします。
4. 努力と強調で健全経営に努め、明るいつながりをつくり出します。
5. 病院の公共性を重んじ、事業を通じて地域に尽くすとともに、法規を遵守します。

NEW FACE



平成29年度からの新任医師紹介!



内科 部長

影本 賢一 Kenichi Kagemoto

旧任地 ▶ 広島大学病院 19年卒
趣味 ▶ ドライブ

これまで広島大学病院にて消化管領域を専門に診療を行ってきました。今までの診療経験を生かしてこの地域の医療に貢献していきたいと考えております。よろしくお願い致します。



内科

山口 哲司 Tetsuji Yamaguchi

旧任地 ▶ 安佐市民病院 25年卒
趣味 ▶ ドライブ

本年度より内科医師として赴任して参りました。3月までは安佐市民病院で呼吸器内科として働いておりました。地域に根差した診療を精一杯頑張りたいと思いますのでよろしくお願い致します。



内科

森元 晋 Shin Morimoto

旧任地 ▶ 庄原赤十字病院 25年卒
趣味 ▶ 紙上旅行

本年度より内科に参りました、森元晋と申します。昨年度までは庄原赤十字病院に勤務していました。地域の皆様の健康的な生活のお手伝いができるよう、努めさせていただきます。どうぞよろしくお願い致します。



内科

隅井 允彦 Masahiko Sumii

旧任地 ▶ 東広島記念病院 26年卒
趣味 ▶ 野球観戦

本年度より吉田総合病院の内科医師として働かせて頂いております、隅井と申します。まだまだ未熟ですが少しでも皆さんのお役に立てるように頑張りますので宜しくお願い致します。



外科

竹井 大祐 Daisuke Takei

旧任地 ▶ 広島大学病院 23年卒
趣味 ▶ スポーツ全般

4月から当院外科で勤務しております竹井と申します。まだまだ若輩者ですが少しでもこの地区の医療に貢献できるよう努力したいと思っております。よろしくお願い致します。



精神神経科 部長

足立 知也 Tomoya Adachi

旧任地 ▶ 三原病院 19年卒
趣味 ▶ 野球

趣味は小学生の頃からやってきた野球です。医療も自分の役割を理解し、他科の先生方とも連携した全員野球の精神で、頑張りたいと思います。

第4回 ミニ市民公開講座

テーマ 多死社会における在宅看取りを考える

日 時 平成29年3月30日(木)
14:00~15:30安芸高田市医師会 理事 津田医院 院長 津田 敏孝氏
シンポジスト 安芸高田市医師会訪問看護ステーション 管理者 近村 美由紀氏
安芸高田市居宅介護支援事業所連絡協議会 会長 小野 祥津紀氏

今回は討論形式で開催しました。まず各シンポジストが、地域で「生きる」ことについてお話いただき、現在、国は地域包括ケアシステムを推進して、在宅での生活を地域で支える体制の構築を進めている「とどき入院ほほ在宅」を実現するために、総合病院・かかりつけ医院・訪問看護・居宅介護支援事業所が連携して、患者様・ご家族様の「住み慣れた地域で暮らし続ける」との思いを叶えるために看取りを推進しているかを、事例も交えながら発表されました。その後、会場の方も交え意見交換を行いました。

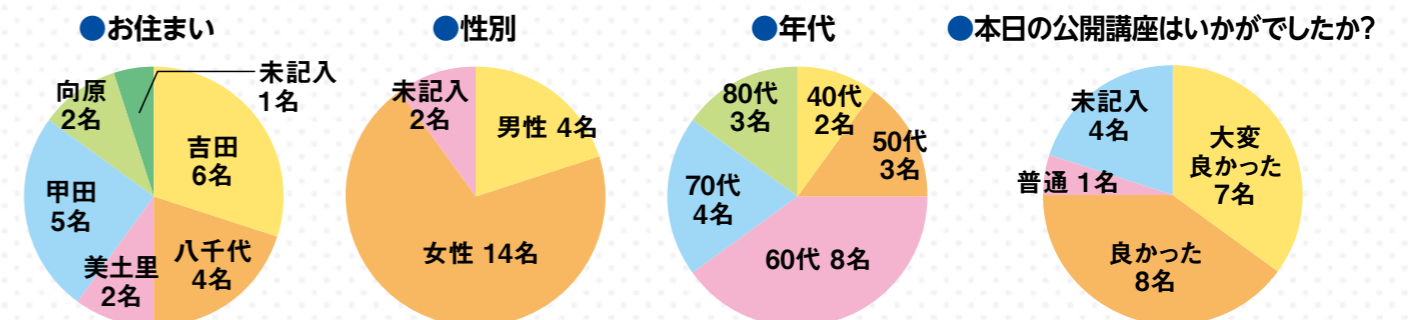
終了後のアンケートには、「地域でのつながりの難しさを感じます(若い人は仕事されていて関わってもらうのは大変)」「田舎は若い者が居ない。都市部は、居ても知らない人という感覚です。その間をどう繋げていけるか…」等のご意見をいただき、地域で支えることへの不安・在宅で看取ることへの不安のご意見を多くいただきました。

今後もその不安解消のために少しでも役に立てるような、ミニ市民公開講座を開催して参りますのでよろしくお願い致します。



※多死社会(たししゃかい)…高齢化社会の次に訪れるであろうと想定されている社会の形態であり、人口の大部分を占めている高齢者が平均寿命などといった死亡する可能性の高い年齢に達すると共に死亡していき人口が減少していくであろうという時期。(ウィキペディアより)

アンケート結果 [出席人数:24名] [アンケート回収:20枚]



●本日の公開講座についての感想

- 深く考えることがなかったので感動した。
- 事例が具体的であった(よかった)。
- 厳しい現実を少し知ることが出来ました。
- 今、地域は大きく変化し、近所の付き合いは中々親しく助け合える人間関係が出来ていない。
- 安芸高田市の職業は介護のウエイトが大きいと考える。介護者の生活を考える方法を聞きたい。
- わかりやすい資料をいただきました。質問に対して丁寧に説明をしていただきました。より質問の時間を増やしてもいいと思います。
- 多職種で関わることの大切さを知りました。地域でのつながりの難しさを感じます(若い人で仕事されている方に関わってもら大変さetc.)
- 田舎は若い者がいない。都市部は、いても知らない人という感覚 → 間の年代の者がどう繋げていけるか…